

# 楽しくなくっちゃウソ！の福祉教育は、 たとえばこんな授業です。

学校や地域で活躍している講師の皆さんが、福祉教育の体験授業をしてくれました。  
こんな授業で、みんながわくわく・ドキドキ！

(2013年2月2日「福祉教育のつどい」 共催：長野市社会福祉協議会)

## 車いすで遊ぼう！

先生：NPO 法人ヒューマンネットながの  
川崎昭仁さん

自身も電動車いすを使用している講師をお迎えして、車いす体験を実施。学校の先生や中学生、ボランティアセンターの運営委員などが参加しました。

まずは車いすで鬼ごっこ。これは車いすの操作に慣れるために車いすバスケの準備運動でよくやるものだそうです。片側の壁に並んだ“子”たちが会場の真ん中で待ち構える“鬼”に捕まらずに反対側の壁に逃げ切れたらOK。

捕まった子は次回から鬼になり、回を重ねるごとに鬼が増えていきます。もちろん、鬼も子ども車いすに乗っています。

1回目はベテラン男性教師が鬼。10人を超える子を相手に一人も捕まえることができません。鬼も逃げる子も慣れない車いすの操作に悪戦苦闘。しかし回を重ねるごとに一人二人と捕まえることができ、次第に鬼と子の人数は逆転。鬼同士で作戦会議を開き、子を囲い込み捕まえます。終わる頃には鬼も子どもすっかり車いすの操作に慣れ、参加者一同もっとやりたいと声を揃えました。

体験した先生からは「学校の車いす体験では、車いすで



遊ぶなと教えていた。逆転の発想で楽しく体験できた。学校でもやってみたい」との感想がありました。川崎さんも「車いすに乗っているから遊べないのではなく、車いすに乗っている子も一緒に遊べる。楽しみながら体験すれば、それがわかります」と話していました。

後半は、車いすに乗る人とアイマスクをして押す人がペアになり、車いすに乗っている人の指示を受けながら車いすを押し、並べたペットボトルを倒していくゲームも行いました。時間が足りず、もっと遊びたい、そんな車いす体験でした。

## 視覚障がいがある方と、すいとんを作ろう！

先生：上村美佐登さん(木曽町)  
笹川文子さん(木曽町)



食事は毎日の生活の基本です。目が見えない人は、食事をどうしているんだろう？じゃあ、一緒に作ってみよう。今日の先生は、視覚障がいがあるけれど、料理の名人です。

先生が野菜を刻む手つきは、本当は見えているのではと思うくらい軽やか。むしろ参加した先生方や学生さんのほ

うが危なっかしい手つきです。「今日のにんじんは大きいね。縦4つに割って、薄く切って」。見えていないのにわかるんだ！おっかなびっくり切り始めた中学生が、まな板の上を指さし「こんな感じで…」と言いかけたあと、「5ミリ位のちょう切りでいいですか？」。言葉で具体的に伝えることが大事だと気づきます。「いい香りがしてきたね。すいとんは4本の指でつまんでお鍋に入れてね」。音や香り、指の感触が目の代わり。ぽんぽんと鍋に投げ込むお団子は、大きさもそろっていて、おいしそう！

できあがったすいとん汁と、自家製の木曾<sup>あかかぶ</sup>赤無漬けをいただきながらお話をしました。ご家族の食事をいつもこんなふう<sup>あかかぶ</sup>に作っていて、三味線や遠出が大好きなお二人。「料理は手が覚えているの。できることは自分でやりながら暮らして、毎日幸せよ」。その言葉を味わう授業でした。

## 生まれてくるってどんな感じ？

先生：NPO 法人 ながのこどもの城いきいきプロジェクト  
田中春海さん



出産直後、お母さんのお腹の上で誕生したばかりの赤ちゃんがおっぱいを探してにじりあがっていく。首のすわらない赤ちゃんがコップからミルクを飲む…驚きの映像に初っ端から命のたくましさを感じます。

早速2人一組になってコップに入れた水を飲ませ合いつこ。赤ちゃん役は首がすわっていないので、首を支えてコップを傾けると、ちゃんと飲めた！災害時でもコップさえあればミルクを飲ませられて衛生的にもいいとのこと。赤ちゃんが苦しい思いをしないように、様子をしっかりと見ながらでな

いと上手くできません。

子宮に入る体験では、大きくて真っ暗な袋に赤ちゃん役の人が入ります。回りの人は袋の上からさすったり、声をかけたり…。中に入った人に聞くと真っ暗なのに全然怖くなかったそう。それどころか「親に対して感謝の気持ちが生まれました」という感想でした。また、紙に自分発でエコマップ(家系図)を書くワークでは〇と線で先祖へとつないでいくと、自分が存在するためにたくさんの人がいたことが実感できます。

どれも命の大切さ、重さを感じる感動的な体験で、幸せな時間を過ごしました。



## 遊びから考えるコミュニケーション

先生：ブラインドサッカー「FC レインボー」  
中沢 匠さん



「ブラインドサッカー」は、視覚に障がいのある人もそうでない人も同じフィールドでプレーするユニバーサルスポーツ。視覚に障がいがある当事者でもある中沢さんは、チームプレーに欠かせないコミュニケーションを通し、様々なかたちの「伝え方」を編み出しています。

まずは簡単な遊びからスタート。約20人の参加者が全員アイマスクを着け、手をつないで輪になります。中沢さんが1回笛を吹いたら「右」、2回吹いたら「左」に回るといふ、シンプルなゲーム。ところが、これがなかなかうまくいきません。他の人の動きが見えない中で、どちらに回るかまどい、お

隣とぶつかることもしばしば。そこで中沢さんからヒントです。「声に出して共有しましょう」と。言われてみれば簡単なこと。「右！」「左！」と声をかけ合うだけで、たちまち動きがピタリと揃って、くるくると輪が回ります。みんなが笑顔になってきました。

続いて、中沢さん得意のブラインドサッカーを少し体験。10mくらい離れたコーンをゴールに見立て、アイマスクを着けたプレーヤーがシュートします。ゴールではサポーター役が「ハイ！」「ハイ！」と声をかけ、ゴール位置へ誘導。周りの人も「もっと右」「そこでシュート！」など、自然と助けを出し始めます。シュートが決まると大歓声！

「見えない」なら、別の「伝える」方法を考えてみる。そのコミュニケーションを通し、みんなで助け合うことで、ひとりでは得られない大きな喜びを実感しました。

## ゲームで楽しくコミュニケーション

先生：NPO法人信州アウトドアプロジェクト  
吉田理史さん



吉田さんは、子どもたちが仲良くなる楽しいゲームを実践している方ですが、この日は「大人」の皆さんが挑戦しました。その一つを紹介します。

参加者全員がひとつの円になります。最初にテニスボールぐらいの大きさのカラーボールを1個ずつ5人が持ち、吉田さんの「せーの」の言葉とともに、ボールを誰かに投げます。このときに必要なのが、コミュニケーションの力。「あなたに投げるよ」というサインをどのように伝えるかです。ボールを持つ人がうまくサインを送ることで相手の人もキャッチが

できるのです。ボールの数を増やしながらゲームは進み、最終的には、メンバーの半分の人がボールを持って、投げます。このときには、誰が誰に投げるのか、投げたボールが空中でぶつかったりと、大変な騒ぎに。成功させるためにみんなで考えることが必要になっていきます。喧々囂々、熱くなってわれを忘れて意見を交わす先生方に対して、周りでジーンと聞いていた高校生がナイスアイデアを出す場面も。行き交うボールは、まるで人の心のように。伝え合うことの難しさや、大切さが垣間見えたのでした。

体験された皆さん、「ゲームの中で自然にいろんな人と関わることができた。やってみてわかることがたくさんあった。」「思ったよりも面白かった」「早速学校でやってみます」など、先生方自身も体験することの良さを実感されていました。





## 「福祉教育のつどい」開催レポート

2012年1月26日に、長野市で「福祉教育のつどい」を開催しました。基調講演、参加者全員で自慢の取り組みを見せ合う「情報フリマ」、そして、全員が「福祉教育って…」のあとに続く一言を発表し、「福祉教育」の可能性を考えました。

共催：長野市社会福祉協議会

基調講演 (抄録)

# 地域にまなぶ・地域をまなぶ 福祉教育のめざすもの

学習院大学教授

講師 **長沼 豊 氏**



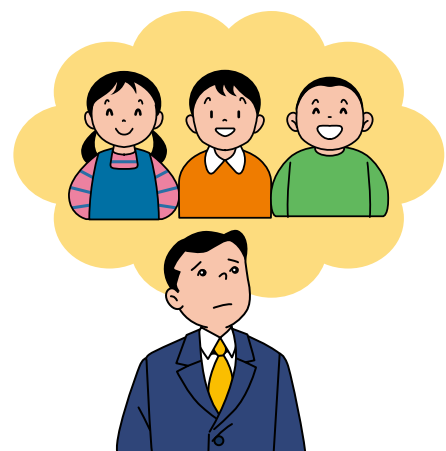
Profile ●ながぬま ゆたか

高校・大学時代からボランティア活動にかかわり、学習院中等科教諭を経て、1999年4月から学習院大学教職課程助教授。その後、准教授を経て2009年4月から現職。大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了、博士(人間科学)。ボランティア学習、市民教育、特別活動を中心に研究を進める。日本ボランティア学習協会常任理事、日本特別活動学会副会長などを務める。

### 福祉教育は子どもたちの視点で 幸せを考えること… 原点から構成しよう

「福祉」という文字は、どちらも幸せを表しています。豊作に感謝してとっくりにお酒をついで、神様にお供えする「福」。神様が私たちの目の前で足を止めてくださるという「祉」。福祉とはすべての人の幸せを考えることです。幸せじゃない状態があればそこに福祉課題がある。

ところが、なぜか福祉教育になると、障がい者、障がい、高齢者の生活を考える、車いすに乗ってみる。急に幅が狭く



なって、幸せ、もっといえば子どもたち自身の幸せを考えるという視点が抜け落ちてしまう。その上に、障がい者、高齢者のことを学ぶから、子どもにとっては「あれはあれ、これはこれ」になってしまう。

学校で疑似体験をやった感想文に「他人にやさしくしましょう」って書いておきながら一方でいじめがある。おかしいですね。「福祉」という言葉の原点に戻って、学ぶことと、自分たちの幸せを考えるということを組み合わせていないと「あれはあれ、僕たちには関係がない」「かわいそう」ということで終わってしまう。そこを考え直すといいかもしれません。子どもたちの目線で、幸せって何だろう、という投げかけがあったっていい。100人いれば100通りの幸せ観が出てくるかもしれません。それをベースに、高齢者の、障がい者の、あるいは日本語のわからない人にとっては、ということに広げて、自分たちの幸せと他人の幸せ、両方を考える。自分の幸せを考えないで、誰か別の人の幸せを考えるなんて、そんな器用なことが子どもたちにできるはずありません。

先生方が取り組んでいる教育活動の中に、幸せを考える営みはたくさんありま

す。いじめがあったら、幸せじゃないと感じている子がいる。児童会活動や生徒会活動は自分たちが幸せな学校生活を送るための活動です。原点の「幸せ」に戻って考えたら、今まで考えてきたものではない「福祉教育」をやっているかもしれない。そういう広い意味での福祉教育と、高齢者、障がい者のことを考えましょうというものを合わせて年間の教育活動を構成したら、面白い福祉教育になると思います。

学校でやってほしいと社会に要求されている教育が、130あります。全部切り取っちゃうから130になるんです。ところが、地域へ出て行って、このまちの住民の幸せってなあにという目線から、じゃあどうしようかって子ども達が考えたら、広い意味の福祉教育になるんじゃないでしょうか。

### 疑似体験の落とし穴… やり方を間違えると うっかり落ちちゃう！

全国的に4年生で点字や手話の学習をやるんですが、目的をどこかに見失っちゃうことがある。



障がいがある人も一緒に楽しめる工夫がされたゲームで、一緒に遊ぶ。

ある中学の文化祭で、舞台上で手話コーラスをやっていました。全員白い手袋をして、指の動きが分からない。これは手話とは言いません。あるいは点字。小学校の先生が大きくて打ちやすいのを開発した。打てるようになって、目の見えない人にお手紙を打つ。でも返事が来ない。ふつうのポチポチの間隔と違うから読めないのです。それすらわかっていない。いいことだからやろうとして、逆に点字って何ということすら忘れてしまった。何が目的なのかわからない。

社協と先生が一緒になって取り組むのが大事です。福祉のプロの方が入って学校のお手伝いをしていただくからいい授業になる。訳がわからない先生がこんなものだろう、とやっちゃったら、それ大丈夫なのってことになります。

車いす、アイマスク、高齢者疑似体験をやる。でも一歩間違えると落とし穴にうっかり落ちちゃう。わかった気にさせちゃう。そこそこよかったという感想文を書く。けれども体験はあくまで疑似で、ここでわかったのは大変な面だけです。そこで終わってはいけない。振り返りの学習の質が勝負です。

「いつも大変なんです」。なんで「いつも」って勝手に決めちゃうのか。「だから助けてあげましょう」。困っている人がいたら助けてあげるとするのは正しいのです。でもよく考えるとそのメッセージの裏で、僕たち私たち、「助けてあげる側」、あの人たちは、「助けられる側」という、差別的な上下関係があるメッセージを発しているかもしれません。注意が必要です。

疑似体験をやるけれど、当事者の方にお話を聞くことをセットにしている学校は大丈夫だと思います。実際に生身の人

間にお話をしていれば大変な面だけじゃないとわかっていただける。

神奈川県知人に、ゲスト講師として人気のある方がいます。車いすユーザーで下半身が動きません。子どもたちは「高いところのものを取る時は大変だ」という答えを期待して、大変なことは何ですかと聞きます。彼は、最初はわざと違うことを言うのです。「大変なことは何ですか」「最近ベイスターズが弱いことが大変だね」。子どもたちの顔がぱっと変わる。あ、横浜市民のおじさんが、たまたま車いすに乗っているんだ、と。そういうことをわざと言わないと、この人は大変だろうなという目でずっと見る、わかっていない先生がいるんです。子どもたちより前に、先生の人権意識とか福祉意識が大丈夫なのかということかもしれません。

### 「ボランティアを受け入れる」 というボランティアもある

福祉施設に交流に行きます。施設は忙しい中でたくさんの交流学習やボランティア受け入れなどをしています。元気な子どもたちの笑顔から生活を変える可能性があるからこそ受け入れてくれる。なのに、事前学習もしないでやってきて、よくわからない歌を歌って帰ってしまう。帰った後、あれは何だったんだろうねと。

施設の職員さんが協力してくれる例があります。子どもが大嫌いという利用者

が「帰れ、うるさい」と言ったらかわいそうだから、交流サロンには子どもが大好きという方たちに集まっていたいて、子どもたちを迎えに出るのです。

以前、中学生と施設へ行きました。一人が緊張で固まってしまった。そこを通りかかったおじさんが、「君、どこから来たんだ」と、ぼーんと肩をたたいて、会話を始めてくれたのです。そこから会話が弾みました。彼は感想文に「固まってしまっていたらおじさんが声をかけてくれました。とてもうれしかった。僕はボランティア活動したつもりがボランティアされちゃったみたい」と書きま

した。どちらもボランティア、双方向なのです。自分がボランティアされてしまったような、そういう感覚を持つかもしれません。こういう関係を実感できるプログラムが福祉教育ではないかと思います。施設の方は、ボランティア学習受け入れボランティアです。

### 福祉教育は「出会い系」

これは出会い系の学習です。生身の人間が出会いの中で、幸せって何というキーワードを考えて深めていく。そういう学び合いが福祉学習ではないでしょうか。色々な出会いがあります。

一つは、他者との出会い。施設の利用者さん、職員さん、地域の皆さんとの出会いが待っています。

社会との出会い。地域に出て色々な活







動をすると今の地域の実状、社会の実状を自分の目で見て、感じ取る学びができます。そこで出会ったおじいちゃんのことを頭から離れないという子もいれば、福祉の制度に興味を持つ子もいる。ここが面白い。

もう一つは、自分との出会い。とくにボランティアの場合はここがキーワードになる。終わった後、役に立ったのかなと確認するのは、ボランティアの宿命です。それは自分に跳ね返ってきます。役に立ったということを感じ取る。この確認をさせてあげないと駄目です。

大学生に、これまでにボランティアをやってきたかと聞くと、ほとんどがやってきたと言います。「ボランティアは、嫌いです」と。ゴミ拾い、つらかった、という印象しかないのです。学生時代に地域のゴミ拾いを“やらされて”ボランティアが嫌いになってしまう人が結構います。役に立ったんだってという実感を持ってもらえばずいぶん違う。振り返り学習が非常に大事です。

新しい自分との出会いが生まれる。福祉教育で人生、進路が変わる子どもができます。「私の大事にしたい価値はこれだ」とその子の価値観に響く。全員ではないですけどね。しかし、100人やったら何人かは、たった1時間でも確実に変わる。これは下手なキャリア教育をやるよりも断然いいです。

### 高校時代のボランティアが人生を変えた

私が高校時代、初めてボランティアをした時の話をします。初めてのボランティアは小さな子どもと遊ぶというもの

でした。今からお話する出来事がなければ私はここにはいません。人生が変わっちゃったんですよ。その女の子の一言で。小学生の、ゆかちゃん。仲が良くて、学校であったことをよく話してくれました。信頼関係ができていたんだと思います。でも、その日に限ってものすごく寂しそうですね。どうしたのって聞いても答えてくれないし、目も合わせてくれない。あきらめて他の子と遊んでいたんですがやっぱり気になってもう一度聞いてみました。そしたら一言「長沼さんの横顔が死んだお父さんに似ている」。思いだしちゃったんですね。

そこは母子寮、今でいう母子生活支援施設です。私がやっていた活動は社会的に意味のあるものでした。でも僕がいることで目の前にショックを受けている子がいる。がーんと頭を殴られた気分でした。次にその子が悲しんでいたら、この活動はやめようと思いました。そしたら次はいつものゆかちゃんに戻っていた。

私はこのことをきっかけに変わりました。楽しいというだけではない、別のゆかちゃんを知ることになり、母子寮という制度も知りました。もしこのことがなければ福祉とか、ボランティアということ意識して考えることもなかったと思います。人間の幸せを考えるのが福祉教育だとすれば、不幸せを考えること、人と出会うことでそれを感じ取ることができれば、子どもたちは自分の人生、生き方について考えるようになります。

### 地域全体で子どもたちを育てる仕組み…地域で学校を支えよう

もう一つ大切なのは役に立ったということを実感できるということです。これを私は社会的有用感といいます。社会の中でということ強調します。

阪神・淡路大震災のときです。神戸に物がなくなってしまって、輸送ボランティアが活躍しました。道も落ちてしまったようなガレキだらけの現地に行けるのは蛇行できるバイクですが、数台でばらばらに行っても、とても間に合わない。

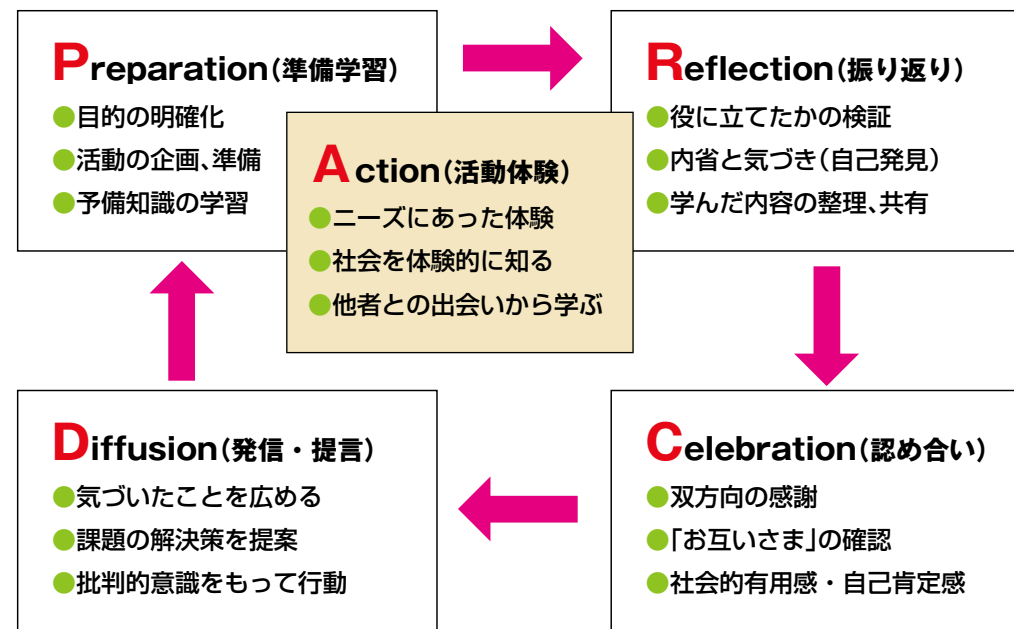
でも、いるじゃないですか、それができる人たち。「バイクを集団で持っていて、統率がとれていて、蛇行運転が得意な若い人」が(笑)。そう、暴走族が100台～200台で物資を持っていったら、おばあちゃんが涙ながらに手を握って、「おおきに、おおきに」と言ってくれた。

彼らは感謝されたことがない。ところがこんなことで喜ばれる。自分達でも役に立つことがあるんじゃないかという有用感を味わって、族なんかやってる暇ねえぞって解散する。

だから「荒れてる学校ほど福祉教育・ボランティア学習」。自分達も役に立つことができる。コンビニの前でタバコ吸ってる場合じゃないぞって気づく。先生や親だけでなく、地域全体で子ども達を育てていく仕組みづくりが福祉教育やボランティア学習でできるんです。



### 福祉教育のプロセス……みんなが嬉しい学びの発展



ボランティア学習の PARCD サイクル（学習過程）© 長沼

こういうやり方で地域を知ると、環境問題も、国際理解も入ってくる、高齢者、障がい者との共存の問題も入ってくる、自分たちも老いていく、クラスの中の問題も福祉課題かもしれない。発達障害、経済的な問題、親が全然子どもに手をかけられない。先生達は今バンク状態です。地域の人たちにヘルプが言えるかどうか重要です。学校支援ボランティアなどの方々と一緒になってやらないとだめです。

こうした福祉教育は先生方だけでは無理です。地域のみなさん、社協、ボランティアグループを巻き込んで一緒にプログラムをつくる。そうすれば落とし穴には絶対落ちない。

先生以外の方が学校を支える仕組みを作らなければならない。学校の先生、社協は異動がある、異動しないのは地域住民だけです。この方が学校を支えましょう。地域に住んでいる人で支える仕組みができれば、先生方が異動しても大丈夫。地域で学校を支える方を組織化するのが重要です。

### 福祉教育のプロセス…みんなが嬉しい学びの発展

福祉教育、ボランティア学習のプロセスの中に、意識して、この図のC、Dを盛り込んでほしい(上図)。まずCは、セレブレーション(Celebration)。「認め合い」。

総合学習の最後の1年間の発表会に地域の方をお呼びして聞いていただく。「受け入れてくださってありがとう」とお礼を言う。地域の方も「皆さんが笑顔をふりまいてくれて、みんな今でも元気ですよ」と言う。双方向で認め合うことができます。地域の方は、そこでその後の学びがどうなったかということも知ることができます。あのあと、こんなに勉強してくれたんだ。受け入れてよかったと思う。片方はいい思いをしたけれどももう一方はもう嫌だというのでは、続きません。お互いにとってよい学びにしないといけない。Cの段階を入れることによって、双方向にできるんです。

最後のDの段階も非常に大事です。広げる、発信、提言するということ。

たとえば〇〇中学校の何年生が地域に貢献しましたって記事を書いてもらう。



社会の人たち認めてくれたんだ、また頑張ろうと思うわけです。

一番嬉しいのは、校長先生。校長先生がすごいなって言われたら、嬉しいですよ。

あるまちでバリアフリーマップを作った、市役所に届けた。市長さんが喜んで、足りないところは私が在任中に必ずなおしますって言った。単なる学びじゃない。本当に役に立った。

これが生まれると福祉教育はものすごく面白い発展になる可能性がある。子どもたちも、先生たちも、校長も、地域の皆さんも喜んでくれた。こういう学びを作っていく。大変ですが、面白さを知ったら、もうやめられない、止まらない。こういう世界をぜひ作っていただきたいと思います。

文責・長野県社会福祉協議会





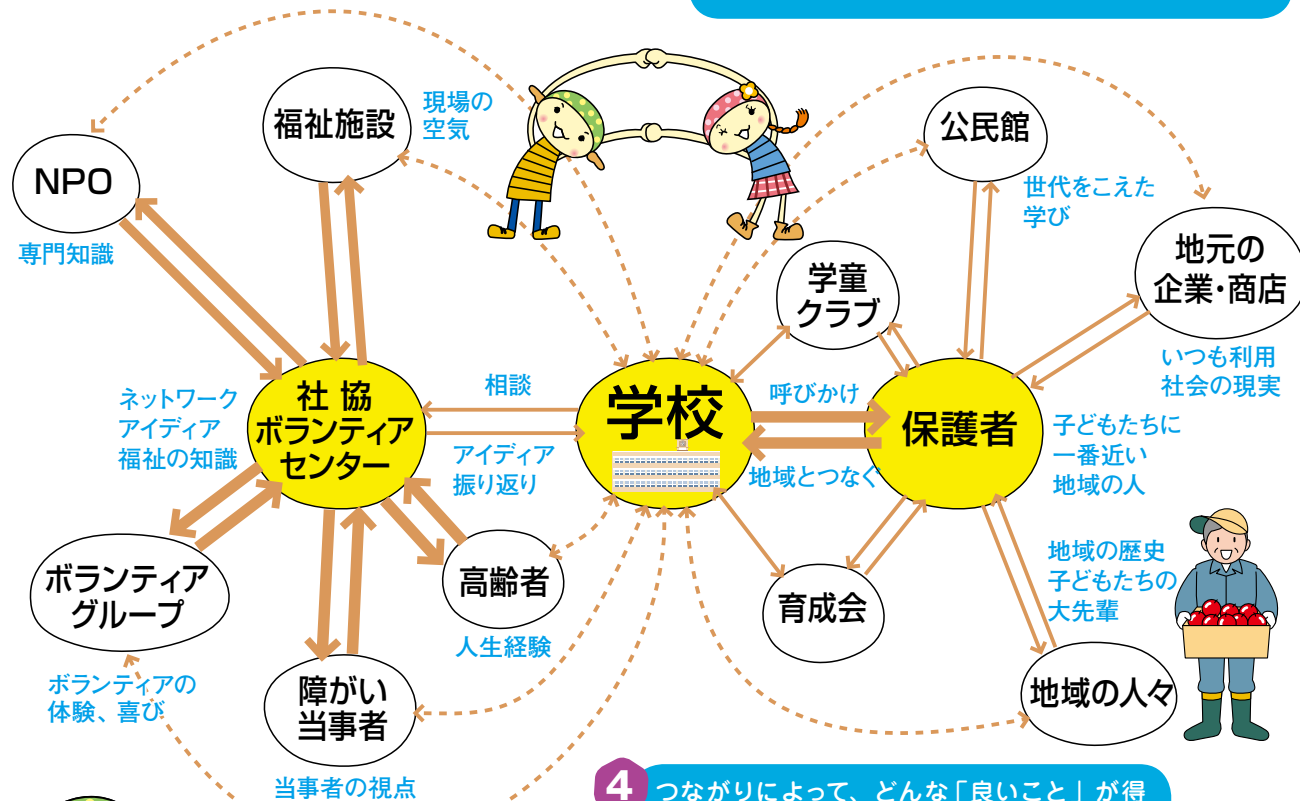
地域にはこんなにいろんな人がいる…  
あなたはどことつながってる？

## 「つながりマップ」を作ってみよう！

地域には様々な人がいます。それぞれの角度から地域社会、日々の暮らしを良くしようとつとめています。地域の人々とともに学ぶことで多様な人の存在に気づき、そうした人々と一緒に、「幸せ」を考えることができます。また、自分だけの「幸せ」でなく、人との関係の中で自分も幸せになることができるということを学べます。今、あなたはどことつながっていますか？ たとえば、以下のような図でつながりを確認してみましょう。

### つながりマップの作り方

- 1 地域にどんな人々がいるかを、カードを並べるように並べてみます。自分たちから近い人や団体は近くに、遠いところは遠くに書いてみます。
- 2 それぞれの人々が、どんな「強み」を持っているかも、あわせて確認します。
- 3 つながりのあるところを線で結びます。つながりの強いところは太い線で、これからつながりたいところは破線で結びます。



- 4 つながりによって、どんな「良いこと」が得られるかを確認します。お互いに良いものを得られる関係になるようにしながら結びます。

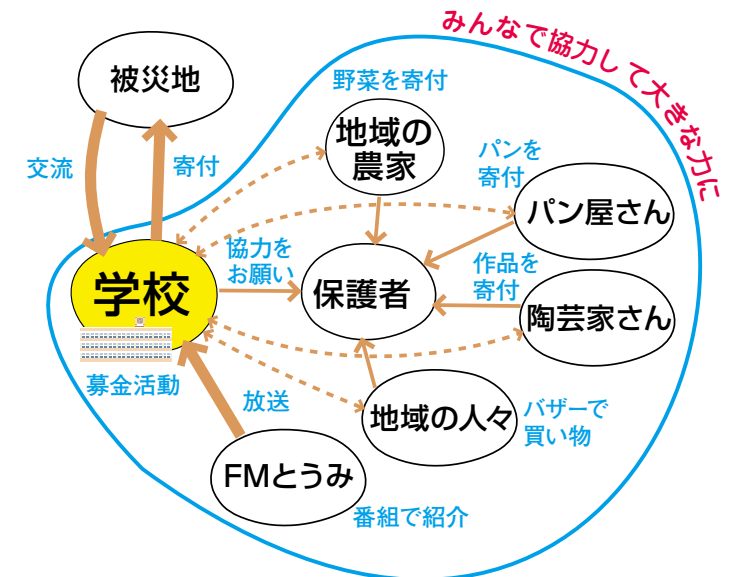


こうして結んでみると、どこにどのようなつながりがあるかが一目でわかります。豊かな学びのためには、誰とつながればよいか、直接のつながりがない場合、どこを経由すればよいかをイメージしながら、地域とのつながりを作っていけば、学びが広がります。

たとえば、こんなかんじ……

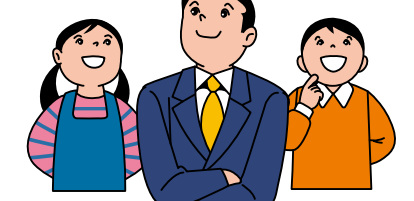
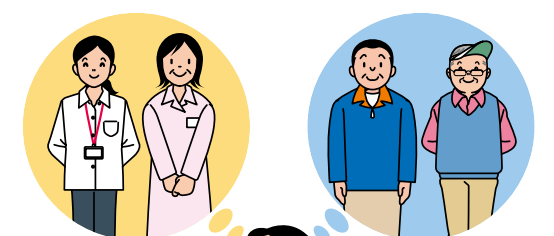
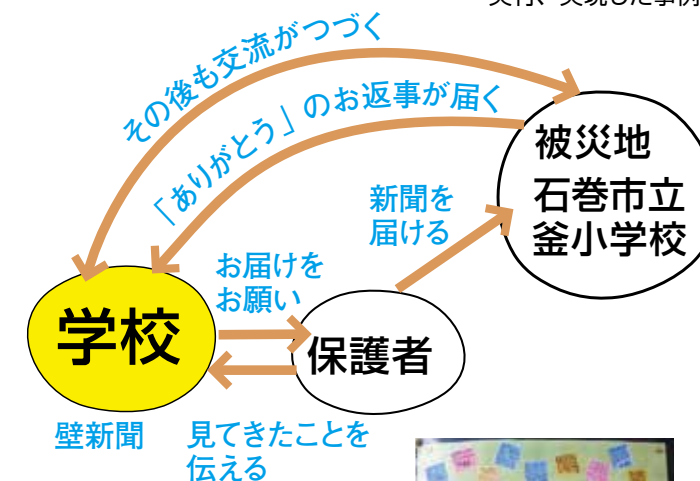
#### つながりマップの例① 東御市立滋野小学校の場合

東日本大震災をきっかけにした学校で行うボランティア活動に、保護者が協力、そこから地域全体に広がって行った事例 (P61 参照)



#### つながりマップの例② 佐久市立田口小学校の場合

東日本大震災の被災地を訪れた一人の保護者の体験を学級の子どたちに伝えることから、子どもたちが自分たちにできることを探して実行、実現した事例 (P61 参照)



これらの例のように、地域の人々とつながることで、活動も学びもより大きな広がりを持つことができます。

地域の人々も団体も、学校とつながる機会を待っています。先生方が「助けられ上手」であることが大切です。違う視点、違う場が学びに加わった時に、子どもたちの気づきは深いものになるのです。





小・中学校の新学習指導要領は2011年4月より、  
高等学校は2012年4月入学生より、全面实施されています。  
指導要領にそって、豊かな福祉教育を実践するアイデアを考えてみましょう。

## 幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント

参考資料（文部科学省）

### 1. 今回の改訂の基本的考え方

教育基本法改正等で  
明確になった  
教育の理念を踏まえ、  
「生きる力」を育成

知識・技能の習得と  
思考力・判断力・表現力等  
の育成のバランスを重視、  
授業時数を増加

道徳教育や体育などの  
充実により、豊かな心や  
健やかな体を育成

### 2. 授業時数の増加（略）

### 3. 教育内容の主な改善事項

#### 言語活動の充実

- 国語をはじめ各教科等で記録、説明、批評、論述、討論などの学習を充実

#### 理数教育の充実

- 国際的な通用性、内容の系統性の観点から指導内容を充実  
〔台形の面積（小・算数）、解の公式（中・数学）、イオン、遺伝の規則性、進化（中・理科）〕
- 反復（スパイラル）による指導、観察・実験、課題学習を充実（算数・数学、理科）

#### 伝統や文化に関する教育の充実

- ことわざ、古文・漢文の音読など古典に関する学習を充実（国語）
- 歴史教育（狩猟・採集の生活や国の形成、近現代史の重視等）、宗教、文化遺産（国宝、世界遺産等）に関する学習を充実（社会）
- そろばん、和楽器、唱歌、美術文化、和装の取扱いを重視（算数、音楽、美術、技術・家庭）
- 武道を必修化（保体/中 1・2）
- 総合的な学習の時間の学習の例示として、地域の伝統と文化を追加（小）

#### 道徳活動の充実

- 発達段階に応じて指導内容を重点化  
〔人間としてしてはならないことをしない、きまりを守る（小）、社会の形成への参画（中）など〕
- 体験活動を推進 ●先人の伝記、自然など児童生徒が感動する魅力的な教材を充実
- 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実

#### 体験活動の充実

- 発達段階に応じ、集団宿泊活動、自然体験活動、職場体験活動などを推進（特別活動等）

#### 外国語教育の充実

- 小学校に外国語活動を導入、聞くこと、話すことを中心に指導（小 5・6）
- 中学校では聞く・話す・読む・書く技能を総合的に充実  
（語数を増加〔900語程度まで→1200語程度〕、教材の題材を充実）

#### 重要事項

- 幼小連携を推進、幼稚園と家庭の連続性を配慮、預かり保育や子育て支援を推進（幼稚園）
- 環境、家族と家庭、消費者、食育、安全に関する学習を充実
- 情報の活用、情報モラルなどの情報教育を充実
- 部活動の意義や留意点を規定 ●障がいに応じた指導を工夫（特別支援教育）
- 「はじめて規定」（詳細な事項は扱わないなどの規定）を原則削除



福祉教育のアイデア たとえば……

- 地域の課題について議論し、その結果を発表したり、学校のホームページで発信する。（国語・社会・情報教育）
- 地域の史跡や昔の暮らしについて、地域のお年寄りの話を聞きに行く。（社会・国語）
- 地域に暮らす外国から来た人に会いに行き、日本と母国の違いについて話を聞く。（外国語）
- 地域の大人に手伝ってもらって、身近な自然や生き物調べをする。（理科）
- 地元で働く人に仕事の話を聞いて、インタビュー番組にまとめる。（社会・国語）
- 自分たちの小学校に入学してくる学区の子どもたちとの交流行事をする（幼小連携）



## 高等学校学習指導要領の改訂のポイント

参考資料（文部科学省）

### 1. 今回の改訂の基本的考え方

教育基本法改正等で  
明確になった  
教育の理念を踏まえ、  
「生きる力」を育成

知識・技能の習得と  
思考力・判断力・表現力等  
の育成のバランスを重視

道徳教育や体育などの  
充実により、豊かな心や  
健やかな体を育成

### 2. 卒業単位数、必修科目、教育課程編成時の配慮事項等（略）

### 3. 教育内容の主な改善事項

#### 言語活動の充実

- 国語をはじめ各教科等で批評、論述、討論などの学習を充実

#### 理数教育の充実

- 近年の新しい科学的知見に対応する観点から指導内容を刷新（例：遺伝情報とタンパク質の合成、膨張する宇宙像） ●統計に関する内容を必修化（数学「数学Ⅰ」）
- 知識・技能を活用する学習や探究する学習を重視（〔課題学習〕（数学）の導入、「数学活用」「理科課題研究」の新設等）
- 指導内容と日常生活や社会との関連を重視（「科学と人間生活」の新設）

#### 伝統や文化に関する教育の充実

- 歴史教育（世界史における日本史の扱い、文化の学習を充実）、宗教に関する学習を充実（地理歴史、公民）
- 古典、武道、伝統音楽、美術文化、衣食住の歴史や文化に関する学習を充実（国語、保健体育、芸術「音楽」、「美術」、家庭）

#### 道徳活動の充実

- 学校教育活动全体を通じて行う道徳教育について、その全体計画を作成することを規定
- 人間としての在り方生き方に関する学習を充実（公民「現代社会」、特別活動）

#### 体験活動の充実

- ボランティア活動などの社会奉仕、就業体験の充実（特別活動）
- 職業教育において、産業現場等における長期間の実習を取り入れることを明記

#### 外国語教育の充実

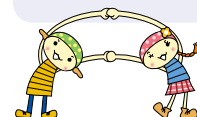
- 高等学校で指導する標準的な単語数を1,300語から1,800語に増加
- 授業は英語で指導することを基本（中学校、高等学校合わせて2,200語から3,000語に増加）

#### 職業に関する教科・科目の改善

- 職業人としての規範意識や倫理観、技術の進展や環境、エネルギーへの配慮、地域産業を担う人材の育成等、各種産業で求められる知識と技術、資質を育成する観点から科目の構成や内容を改善

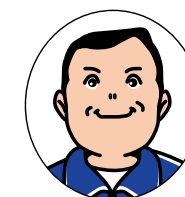
#### 重要事項

- 体育、食育、安全教育を充実 ●環境、消費者に関する学習を充実
- 情報の活用、情報モラルなどの情報教育を充実
- 部活動の意義や留意点を規定 ●障がいに応じた指導を工夫（特別支援教育）
- 「はじめて規定」（詳細な事項は扱わないなどの規定）を原則削除



福祉教育のアイデア たとえば……

- 地域が抱える課題について議論し、文化祭でディベートを行ったり、新聞を発行したり、行政に提言したりする。
- 高齢者や障がいのある人と一緒に、新しい製品などを開発し、プレゼンテーションする。
- 地域の人々と一緒に、コミュニティビジネスを企画し、実践してみる。
- 地域で働く人に弟子入りをして、本気で仕事を教えてもらう。  
（伝統産業、地域のお店、農林水産業、福祉施設、ボランティアセンター……）





# 地域と共にある学校づくり 信州型コミュニティスクール 概要版

## 信州型コミュニティスクールとは

信州型CSとは、学校と地域が「こんな子どもを育てたい」という願いを共有しながら、一体となって子どもを育てる仕組みを持った地域と共にある学校です。

### 協働

#### 学校支援ボランティア

- ★組織化による持続的な学校支援
- ＜子どもたちへ＞
- 多様な人との関わり
- 豊かな体験学習
- 学習支援 等

### 代表

(ボランティアの経験を生かして)

### 協議

#### 運営委員会

- ★意見交換(熟議など)
- ①めざす子ども像
- ②学校の重点目標や課題への取組
- ③支援で気づいたこと
- ★学校支援の方向性や調整
- ★学校関係者評価

- ◇願いや課題の共有
- ◇支援の方向・調整

### 地域・家庭

PTA 公民館 自治会  
願いや課題を共有し、学校・地域・家庭が一体となって子どもを育てる

#### 運営委員会って何？

信州型CSの核となる会議です。

##### 運営委員になる方

- ★ボランティア組織の代表または、コーディネーター
- ★学校代表 ○PTA ○公民館 ○育成会
- 民生児童員 ○自治会 等 (★必須 ○任意)

##### ねがい

- ◆ボランティアや地域で子どもの育成に関わっている経験をもとに、子どもや学校運営についての意見をいただき、学校運営に生かします。(アドバイスとして)
- ◆子どもや学校運営について話し合ってください。子どもへの願いや課題を共有し、共に何ができるか考えていただきます。
- ◆共有した願いや課題を地域全体へ発信していただきます。

##### 役割

- ①学校運営についての意見交換
  - ②学校支援の方向性決定・調整
  - ③学校関係者評価
- について一体的に行う

##### 既存会議の活用

これまで行われてきた会議を活用することも可能  
例) 学校支援地域本部、放課後子ども教室運営委員会、学校運営協議会、学校評議員の会等

## 学校支援ボランティアの活用

信州型コミュニティスクールの土台は、学校支援ボランティアです。学校は、積極的に学校支援ボランティアを活用することが求められています。授業等教育活動の中で、地域の人材を含めた教育資源を、どこでどのように生かすことができるか考えて、計画的に取り入れていきましょう。

地域とつながることは、学校にとってはもちろんですが、実は地域住民の皆さんにとっても、そして何より子どもにとっても、多くのメリットがあります。

### 【地域人財・地域教材を生かした学習活動】

地域人財や地域教材を活用することで様々な効果が・・・

- ゲストティーチャーによる学習の深まり
- 学習アシスタント(補助)によるきめ細かな支援
- 地域学習の充実
- 体験学習や交流学習による学びの裏付けや学びの活用場面づくり 等

学校支援ボランティアにも様々な支援があります。

#### 学校支援ボランティアのタイプ

##### 活動の特殊性(専門知識技能)

##### 施設メンテナンス型

施設の補修・塗装、飼育小屋づくり、刃物研ぎ、植木の剪定、パソコン管理、保健室補助 ほか

##### ゲストティーチャー型

教科指導(地域講師)、ものづくり指導、伝統芸能演習、部活動指導 ほか

##### 環境サポーター型

学校内外パトロール、図書室運営、図書管理、花壇整備、草取り、ビデオ撮影、体験活動受け入れ ほか

##### 学習アシスタント型

少人数指導・TT指導の補助、教材作成の協力、通学安全指導、校外学習の引率、児童生徒との交流 ほか

##### 活動の一般性(誰にでも)

日本大学 佐藤晴雄教授「学校支援ボランティアより」

### そして

子どもにとって、多様な地域の方とふれ合うことは、

- ◆人と関わる力をつける
- ◆目指す生き方にふれる
- ◆学ぶ意欲を高める
- ◆地域への愛着を育む など

成長に欠くことのできない大切な学びの機会になります。

### 地域の方にとっても

学校支援ボランティアは、地域の皆さんにも得るものがたくさんあります。

- 学校支援をきっかけに、地域全体で子どもを育てる気運が高まり、地域や家庭の教育力が向上します。
- 子どもを縁に地域の絆が深まり、地域が元気になります。
- 子どもに教えたり、子どもと触れあったりすることで、地域住民の学びや生きがいづくりにつながります。

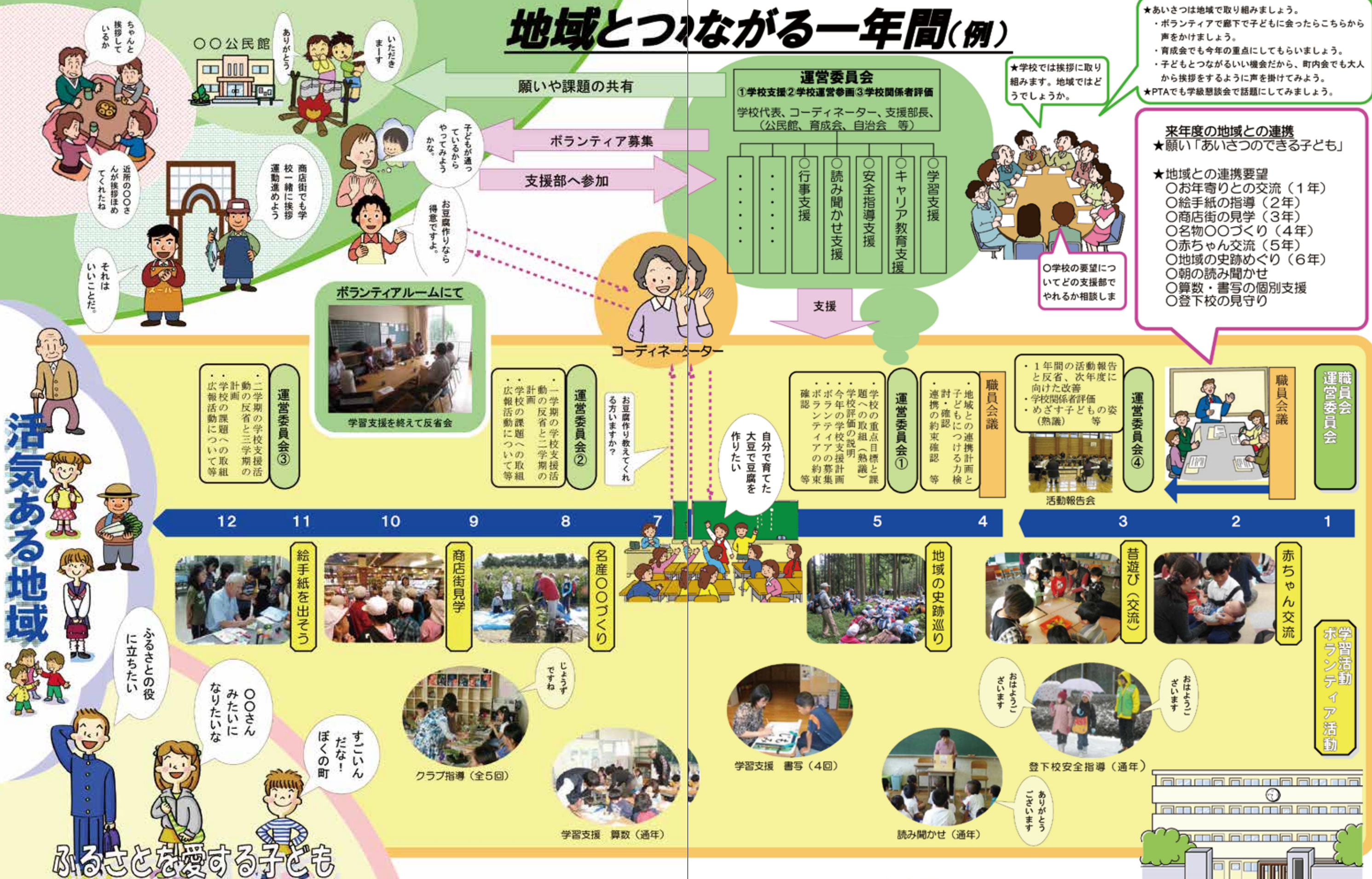
地域の方と連携する場合は、地域の方にとってのやりがいも大切にしながら進めましょう！

#### ■お問い合わせ先■

長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課 Tel.026-235-7437 e-mail: bunsho@pref.nagano.lg.jp



# 地域とつながる一年間(例)



信州型コミュニティスクール





# 広げよう つなげよう ボランティアの ココロ

「気になる」気持ちを力強い活動に育てるためには、小さな気持ちやつぶやきを多くの人と共有し、一緒に考え、行動することが大切です。多様な人と協働し、広くアピールしていきましょう。こうして多くの人を巻き込み、つながり、循環しながら広がる“ボランティアのココロ”の輪が、「私たちの地域をしあわせにする」ための大きな力になるのです。



## 地域とつながる第一歩！

まずはお近くの社会福祉協議会・ボランティアセンターへご相談ください。



| 市町村  | 名 称                   | 電 話          | 市町村  | 名 称                        | 電 話          | 市町村   | 名 称                  | 電 話          |
|------|-----------------------|--------------|------|----------------------------|--------------|-------|----------------------|--------------|
| 長野市  | 長野市ボランティアセンター         | 026-227-3707 | 小海町  | 小海町社会福祉協議会                 | 0267-92-4107 | 喬木村   | 喬木村社会福祉協議会           | 0265-33-4567 |
| 松本市  | 松本市ボランティアセンター         | 0263-25-7311 | 佐久穂町 | 佐久穂町ボランティアまちづくりセンター        | 0267-86-4273 | 豊丘村   | 豊丘村ボランティアセンター        | 0265-35-3327 |
| 上田市  | 上田ボランティア地域活動センター      | 0268-25-2629 | 川上村  | 川上村社会福祉協議会                 | 0267-97-3522 | 大鹿村   | 大鹿村社会福祉協議会           | 0265-39-2865 |
| 上田市  | 丸子ボランティア地域活動センター      | 0268-43-2566 | 南牧村  | 南牧村ボランティアセンター              | 0267-96-2363 | 上松町   | 上松町社会福祉協議会           | 0264-52-3560 |
| 上田市  | 真田ボランティア地域活動センター      | 0268-72-2998 | 南相木村 | 南相木村社会福祉協議会                | 0267-78-1001 | 南木曾町  | 南木曾町ボランティアセンター       | 0573-75-5516 |
| 上田市  | 武石ボランティア地域活動センター      | 0268-85-2466 | 北相木村 | 北相木村社会福祉協議会                | 0267-77-2111 | 木曾町   | 木曾町社会福祉協議会           | 0264-26-1116 |
| 岡谷市  | 岡谷市ボランティアセンター         | 0266-24-2121 | 軽井沢町 | 軽井沢町社会福祉協議会ボランティアセンター      | 0267-45-8113 | 木祖村   | 木祖村ボランティアセンター        | 0264-36-3441 |
| 飯田市  | 飯田市ボランティアセンター         | 0265-53-3182 | 御代田町 | 御代田町ボランティアセンター             | 0267-32-1100 | 王滝村   | 王滝村社会福祉協議会           | 0264-48-2008 |
| 諏訪市  | 諏訪市ボランティア・市民活動センター    | 0266-54-7715 | 立科町  | 立科町町民活動センター                | 0267-56-1825 | 大桑村   | 大桑村ボランティアセンター        | 0264-55-3755 |
| 須坂市  | 須坂市福祉ボランティアセンター       | 026-245-1619 | 長和町  | 長和町社会福祉協議会                 | 0268-88-3069 | 麻績村   | 麻績村社会福祉協議会           | 0263-67-3099 |
| 小諸市  | 小諸市ボランティアセンター         | 0267-26-0315 | 青木村  | 青木村社会福祉協議会                 | 0268-49-2129 | 生坂村   | 生坂村福祉ボランティアセンター      | 0263-69-1122 |
| 伊那市  | 伊那市ボランティア・地域活動応援センター  | 0265-73-2541 | 下諏訪町 | 下諏訪町ボランティアセンター             | 0266-27-8886 | 山形村   | 山形村ボランティアセンター        | 0263-97-2102 |
| 駒ヶ根市 | 駒ヶ根市社会福祉協議会           | 0265-81-5900 | 富士見町 | 富士見町ボランティアセンター             | 0266-78-8986 | 朝日村   | 朝日村社会福祉協議会           | 0263-99-2340 |
| 中野市  | 中野市社会福祉協議会            | 0269-26-3111 | 原村   | 原村社会福祉協議会                  | 0266-79-7228 | 筑北村   | 筑北村ボランティアセンター        | 0263-66-2506 |
| 大町市  | 大町市ボランティアセンター         | 0261-22-1501 | 辰野町  | 辰野町ボランティアセンター              | 0266-41-5558 | 池田町   | 池田町ボランティアセンター        | 0261-62-9544 |
| 飯山市  | 飯山市民活動支援センター          | 0269-62-2840 | 箕輪町  | みのわ ふれ愛センター(箕輪町ボランティアセンター) | 0265-70-1061 | 松川村   | 松川村ボランティアセンター        | 0261-62-9000 |
| 茅野市  | 茅野市ボランティア・市民活動センター    | 0266-73-4431 | 飯島町  | 飯島町ボランティアセンター              | 0265-86-5511 | 白馬村   | 白馬村ボランティアセンター        | 0261-72-7230 |
| 塩尻市  | 地域福祉・ボランティアセンター       | 0263-52-2795 | 南箕輪村 | 南箕輪村ボランティアセンター             | 0265-76-5522 | 小谷村   | 小谷村ボランティアセンター        | 0261-82-2430 |
| 佐久市  | 佐久市ボランティアセンター         | 0267-64-2426 | 中川村  | 中川村ボランティアセンター              | 0265-88-3552 | 坂城町   | 坂城町ボランティアセンター        | 0268-82-2551 |
| 佐久市  | 佐久地域ボランティアセンター        | 0267-67-2463 | 宮田村  | 宮田村ボランティアセンター              | 0265-85-5010 | 小布施町  | 小布施町ボランティアセンター       | 026-242-6665 |
| 佐久市  | 臼田地域ボランティアセンター        | 0267-82-4332 | 松川町  | 松川町地域ボランティアセンター            | 0265-36-3778 | 高山村   | 高山村社会福祉協議会ボランティアセンター | 026-242-1220 |
| 佐久市  | 浅科地域ボランティアセンター        | 0267-58-0383 | 高森町  | 高森町ボランティアセンター              | 0265-34-3001 | 信濃町   | 信濃町ボランティア・まちづくりセンター  | 026-255-5926 |
| 佐久市  | 望月地域ボランティアセンター        | 0267-51-1520 | 阿南町  | 阿南町ボランティアセンター              | 0260-22-3151 | 飯綱町   | 飯綱町ボランティアセンター        | 026-253-1001 |
| 千曲市  | 千曲市ボランティアセンター         | 026-276-2687 | 阿智村  | 阿智村社会福祉協議会ボランティアセンター       | 0265-45-1234 | 小川村   | 小川村社会福祉協議会           | 026-269-2255 |
| 東御市  | 東御市社会福祉協議会ボランティアセンター  | 0268-62-4455 | 平谷村  | 平谷村社会福祉協議会                 | 0265-48-2220 | 山ノ内町  | つつみ住民活動センター          | 0269-33-2810 |
| 安曇野市 | 安曇野市社会福祉協議会ボランティアセンター | 0263-72-1871 | 根羽村  | 根羽村社会福祉協議会                 | 0265-49-2288 | 木島平村  | 木島平村ボランティアセンター       | 0269-82-4888 |
| 安曇野市 | 安曇野市ボランティアセンター 明科支所   | 0263-62-2429 | 下條村  | 下條村社会福祉協議会                 | 0260-27-2858 | 野沢温泉村 | 野沢温泉村社会福祉協議会         | 0269-85-4347 |
| 安曇野市 | 安曇野市ボランティアセンター 堀金支所   | 0263-73-5288 | 売木村  | 売木村社会福祉協議会                 | 0260-28-2004 | 栄 村   | 栄村社会福祉協議会            | 0269-87-3020 |
| 安曇野市 | 安曇野市ボランティアセンター 穂高支所   | 0263-82-2940 | 天龍村  | 天龍村社会福祉協議会                 | 0260-32-2277 | 長野県   | 長野県社会福祉協議会           | 026-226-1882 |
| 安曇野市 | 安曇野市ボランティアセンター 三郷支所   | 0263-77-8080 | 泰阜村  | 泰阜村社会福祉協議会                 | 0260-26-2162 |       |                      |              |